

♪ 煌めく未来を 作りだそう 花の咲くこのまちで きっと ぼくらの思い カラフルに 踊り出す

これは、富良野の歌「絆のハーモニー」の歌詞の一部です。この歌は、令和5年度、富良野市内の小中学生から歌詞を募集し作りました。3年にも及ぶコロナ禍の中で、子どもたちの学校での活動が制限され、生活に大きな影響を与えられました。そんな中でも、自分の中の不安や疑問を出し合って、みんなで考えあったり、分かり合ったりするということとても大切なことを学びました。また、コロナ禍で経験したことを、学校の役割や友だちの在り方を考え直すチャンスともなりました。「人と人とのつながり」「人を思いやる優しさ」「あきらめないで頑張ることの大切さ」を「ふらのの子どもうた」として形にしたのです。

募集すると、小学1年生から中学3年生まで、たくさんの歌詞がGoogleフォームに入ってきました。子どもたちの「ふるさと富良野」について、自慢できるところ、これからも存続して行って欲しいところ、未来を心配する気持ちなどにキラリを感じました。コロナ禍で一気に広がったギガスクール構想により、1人1台端末の活用がされていることも実感されました。二次元バーコードを読み取って、それぞれの地域から応募できるといった方法にもキラリを感じます。

歌詞の募集から歌の完成までには、プロジェクトチームが活躍しました。市内の先生方に協力を呼びかけたのです。プロジェクトに賛同してくれた先生達が集まり、楽譜を作ったり、実際に合唱の練習をしたり、やってみようと手を挙げてくれた先生達にキラリが見えました。

そして、「ふらのの子どもうた」は、各学校でも、各学校から子どもたちが集まった場でも、歌うことができるのです。完成して、初のお披露目となったのは、市内音楽発表会です。音楽発表会に参加した市内の小中学生、中学生が合唱しました。今日の発表会で初めて会った友だちと歌を歌う、同じ歌が歌えると初めて会った友だちとも距離が近づく感じがしたのではないのでしょうか。偶然、知らない土地で同郷の人に会ったときの親近感のようなものではないのでしょうか。友だちっていいな、同郷っていいなというキラリと気持ちが温かくなります。

最後に、「ふらのの子どもうた」には、子どもたちが大人になったときも歌い続けて欲しいという想いがこめられています。キラリと輝く未来が待っている子どもたち、いや輝かしいばかりではないかも知れません。その時には、幼い頃を思い出して、富良野を思い出して、強くたくましく人生を歩いて行って欲しいと願っています。



扇山小学校学芸会の全校合唱の様子



市内音楽発表会の全体合唱の様子